

19 金石文から読み解く地域の水害史

台風銀座という言葉が生きていた時代、岡山市内山下界限では、岡山県は災害の無いのが災害…と言われました。つまり、自然災害が少なく、その分、国の予算配分が少なく、公共土木施設の整備が進まないというのです。

しかし、今では気象庁が命名するほどのものが、全国、時と場所を選ばず襲来する実態をみれば、災害のないのが…など、呑気な時代は過ぎ去ったことは確かです。

しかし実際は、災害の無いのが…という岡山県も過去何度となく大きな災害に見舞われているのです。忘れた頃にやってくるとは良く言ったものです。

では、足守川流域はどうなのでしょう。平成2年に治水を兼ねた黒谷ダムが完成して模様は一変したと言います。しかし、足守川は古来洪水の度に川筋が変わるといふ暴れ川でした。そこで、流域に残る金石文から、過去の水害史をのぞき見しました。



流されたものでしょう。松井の川辺ということなので、烏帽子山松井寺の西方の山裾、字下松井に違いないでしょう。

土地台帳では、対岸の護岸堤防から山裾までの農地が中河原、山裾から山腹へかけてが下松井となっています。中河原とは、かつて川筋であったことを意味します。つまり、足守川は東へ蛇行して山裾の下松井に接して流れていたのです。流されやす



下鍛冶屋の旧八幡様

い訳です。

さて、この地点からおおよそ500m下流の浮田川との合流点、三明163番地の傍らに大藏神社という小社が祀られています。

隣りに住む、光畑さんのお話では「上から流れて来た」そうです。足守川と浮田川の合流点ですから、下松井からのものが漂着する可能性は大です。しかし、これが下松井の大藏様ならば、何故に元の位置へ再建されなかったのか。また、再建者が三明地区の人達と

いうのも、いささか不可思議なことです。

そして、この話と関係あるものか否か、大井字下鍛冶屋1937番地に、栄町と八軒町



先ず最初は、河原村松井地区にまつわるお話です。この地区には、昔、足守川の洪水でお宮が流され、下流の大井の河原で拾われた御神体がそのまま大井神社へ祀られたので、大井神社の氏子になったという話が伝わっています。

備中誌に、松井の川辺に大藏という宮あり。境内高一斗六升、住坊二間に四間…という下りがあります。おそらくこのお宮が洪水で



三明の大藏神社



大藏神社再建者

で祀る旧八幡様と呼ばれる小社があります。ここには、玉田の人が足守川・日近川の合流点の神ノ木で拾ったと伝わる木造の仏体が安置されています。これが下松井の大蔵神社のものなのでしょうか。河原村松井から大井村神ノ木まで、足守川の線は繋がってもこれに筋道をつけるのは難しいことです。



大森の稲荷神社跡 手前が足守川

「奉寄進地覆石」と刻んだ石を据え、社地の流失を防ぐ手立てが講ぜられています。文字通り地を覆う石です。

これには、慶応3年、大井上之町の金毘羅常夜灯の建立に三十両を寄進した伊丹傳五郎（1846～1933）、明治3年、掛畑地内の大山道に道しるべを兼ねた切分地蔵尊を建立した大森治路右衛門ら大森・中村中の6名と喜邨申之歳の文字が刻んであります。これらの顔ぶれと、申之歳ということから寄進は、明治5年と推定しました。



嘉永五年宮原池決壊水死者慰霊の地藏尊

中村は、その名のとおり足守川が運んだ土砂が堆積した中州村です。当然ながら水には苦勞の多かった土地柄です。そこで、次のとおり推理しました。

嘉永5年（1852）は、記録的な大雨に見舞われました。痛ましい出来事もあったことでしょう。宮原池の決壊と足守川の氾濫で多くの死傷者が出たのではないのでしょうか。そこで、洪水で倒れた常夜灯は、被災の記憶を後世に伝え、傍らに、村の再建に一致取り組む意思を込め、金毘羅灯籠を再建したと言うのはどうでしょうか。

さて二つ目です。明治の寺社仏堂合併令により大井神社に合祀された宇大森の稲荷神社跡地に、度々の洪水に悩まされたことを物語る珍しいものを見ることができます。

この社は、大森113番地にありました。今は吉備高原自転車道である大森堤（別称桜土手）から、足守川河川敷の方へ張り出しています。

この社は、大森地区の五穀豊穰を願って建立されて以来、洪水の度に社地が流失するという有様でした。そこで、水の流れが当たる敷地の北面に

「奉寄進



大森の稲荷神社跡の地覆石

そして三つ目は、総社市東阿曾宮原大池の堤にある為水死諸霊○菩提也と刻まれたお地藏さんです。嘉永5年（1852）に建てられました。

一方、東阿曾中村の荒神社境内には2基の金毘羅常夜灯があります。

一つは文政9年（1826）の建立で、棹石が傾き火袋や笠石が脇に転がっています。そして、いま一つのもは、どっしりとした方柱で、再建立嘉永五年四月吉祥日と刻んであります。

さて、宮原大池の地藏仏と、中村の金毘羅常夜灯は何を物語るのでしょうか。



東阿曾中村荒神社の金毘羅常夜灯
手前は再建・前方は洪水で傾いたもの